



写真1：占において扇と念珠を持ち  
巫歌を歌う巫堂（撮影・李 炳男）

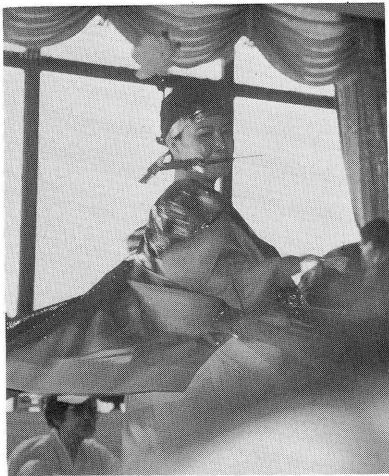


写真2：短剣を口にくわえて踊り  
舞う巫堂（撮影・森 雅文）



写真3：五色の布が張り巡ら  
された祭場で、刀の上に立つ  
巫堂（撮影・森 雅文）

# 韓国の巫堂

藤崎康彦（跡見学園女子大学）

李 炳男（同志社大学大学院）

森 雅文（立教大学大学院）

ソウルの町を歩いてみると、「卍」の旗や看板を掲げた家々を目にする。これが人々が病気や不幸などの相談に訪れる韓国の降神巫、巫堂の家の目印である。巫堂は依頼者に占（チョム）を行い、神託（コンス）を下す（写真1）。占のやり方そのものは千差万別、かなりの個人差がある。ある占では、そのカリスマを誇示するために一箱分のタバコに火をつけて口にくわえた巫堂もいた。そして事態が深刻になれば、除災招福のための儀礼（クツ）が行われる。

歌舞賽神を中心とする巫堂のクツは、鐘や鈴が激しく打ち鳴らされる喧騒の中で進行する。赤、青、黄、緑、ピンクなど原色系のチマチョゴリをまとった巫堂達の舞は躍動感に満ちたものだ（写真2）。長いものは数日間を要するというから、巫堂も依頼者もそれなりの準備が必要だ。合間に人参入りの栄養ドリンクを飲み干すのは御愛嬌、現実的な薬効を求めねば身が持たぬのだろう。一般の参加者に対しても賽銭の現金を「もっと、もっと」と露骨に要求する姿は、日本人の目には何とも奇異に写った。

クツは各々に異なった神々を祀る祭礼（コリ）の組み合わせで構成され、その順序や総数は儀礼に応じて変わる。祭壇には供物の菓子や果物が山積みになされ、神霊を描いた図像が掲げられる。ソウル地方の巫堂の場合、こうした図像を模した衣装や小道具をコリ毎に着替えては踊り舞い、次々に神霊を憑依させてゆく。將軍神を憑依させた巫堂は、図像と同様に一枚の大きな刀の上に素足で立ち、その勇姿を披露してくれた

（写真3）。